

株式会社 コーソル

オラクル認定資格の取得を事業戦略として推進

ORACLE MASTER Platinum取得者数“業界No.1”を実現



Oracleデータベースを中心に、データベースの設計から導入・構築、運用管理、保守・サポート、コンサルティングのトータルソリューションを提供する株式会社コーソル（以下、コーソル）。同社では社員によるオラクル認定資格の取得を差別化戦略の一環として推進、2016年に「ORACLE MASTER Platinum」の累計取得者数で国内ナンバーワンに躍り出た。併せて、「Oracle Certification Award 2016」も受賞している。その背後にどのような制度・体制、そして技術者育成の環境作りがあったのか。そんな疑問を解き明かす。

オラクル認定資格を差別化の柱に

コーソルは、お客様の課題を「CO-Solutions：共に解決する」という理念を掲げ、2004年に設立された。設立以来、一貫してデータベースに特化した技術支援サービスを提供、データベースの設計、導入、構築、運用管理、保守・サポート、さらにはコンサルティングなど、幅広いサービスを手掛けている。

コーソルの創設者で代表取締役の金山俊明氏は、データベースに特化した理由をこう話す。「データベースはITシステムの中核で、それがきちんと機能しなければ、今日の情報化社会は成り立たないと言えるほど重要な仕組みです。にもかかわらず、データベースの領域では慢性的な技術者不足に悩まされてきました。その問題をどうにか解決したいと考え、コーソルを立ち上げたのです」

そんなコーソルが、ビジネスの中心に据えているのがOracleデータベースだ。理由はシンプルでOracleデータベースがエンタープライズデータベースの市場で圧倒的なシェアを保持しているからだ。とはいえ、Oracleデータベースのビジネスは競争が多く、競争の中には大手のシステムベンダーやSIerも少なくない。そんな中で競争優位を確保するには、自社の優秀性・特色を目に見えるかたちで示さなければならない。そう判断した金山氏は、差別化戦略の一環として、自社のすべてのエンジニアにオラクル認定資格を取得させるという方針を打ち出した。この方針の下、同社はオラクル認定資格の取得に全社を挙げて取り組み、2016年に「ORACLE MASTER Platinum」の累計取得者数を国内ナンバーワンへと押

上げた。現在（2016年12月時点）、同社におけるORACLE MASTER Platinum（「ORACLE MASTER Platinum Oracle Database」）取得者数は47名に上り、ほか64名が「ORACLE MASTER Gold Oracle Database」を、6名が「ORACLE MASTER Silver Oracle Database」資格をそれぞれ取得、計117名のエンジニアがORACLE MASTER Silver以上の資格を有するに至っている。

認定資格を人事制度に組み入れる

オラクル認定資格の取得を推進するに当たり、コーソルでは2011年から人事制度にも手を加えている。この制度では、10段階で「能力等級要件レベルシート」が定義されており、それぞれの等級に応じて取得すべきオラクル認定資格も明記されている。たとえば、この制度で2等級に昇格するには、ORACLE MASTER Silverの取得が必須で、3等級に昇格するには、ORACLE MASTER Goldの取得が必要になる。

このように人事制度とオラクル認定資格をリンクさせたメリットについて、技術統括の渡部亮太氏は次のような説明を加える。

「現行の人事制度によって、昇格のためにどういった技術資格を取得すればよいのか、会社が社員（エンジニア）に何を求めているかが

明確になり、エンジニアたちも自己研さんの目標や方向性が見定めやすくなったと言えます。加えて、中途採用に関してもORACLE MASTER Bronzeの取得を入社時の最低条件にしています。これにより、入社希望者のデータベースに関するスキルや熱意が測りやすくなっています」

もっとも、コーソルでは、ORACLE MASTER 最上位であるORACLE MASTER Platinumの取得に関してはエンジニアの自主性に任せている。「ただ、Platinumを取得したいとの意思を示したエンジニアに対しては、学習環境を提供するなどの可能な限りの支援を行っています」と、金山氏は説明を加える。

また、資格取得を全社的に奨励してきたことで、エンジニアの間に良い意味での競争意識が芽生え、と同時に、同じ勉強に取り組むもの同士が分からないところを教え合うといった連帯感も生まれたという。そうしたことが、ORACLE MASTER Platinum取得者の増進につながったようだ。



株式会社コーソル
代表取締役
金山 俊明氏



株式会社コーソル
技術統括
渡部 亮太氏

ナンバーワン達成で高まる周囲の期待

コーソルでは、中期経営計画の中で「ORACLE MASTER Platinumの累計取得者数を国内ナンバーワンにする」という目標を立てていた。

「その計画からは1年遅れとなりましたが、目標をどうにか達成することができました。オラクル認定資格取得者の推進プロジェクトは、中期経営計画の中で最も成功した取り組みと言えます」（金山氏）。

もちろん、この成功はコーソルのビジネスに好影響をもたらしており、これまで取引のなかった会社から問い合わせや見積依頼が届くケースが大幅に増えているという。

「我々のサービスは人がすべてで、個々のエンジニアがお客様から信頼され、評価されることでビジネスが拡大していきます。ですから、人によってサービス品質にムラがあるようでは困りますし、それに対するお客様の不安も解消しなければなりません。その意味で、ORACLE MASTER Platinumは、当社のサービス品質を高いレベルで確保するうえでも、また、お客様に安心感を与えるうえでも非常に有用な資格です。事実、その累計取得者数が国内ナンバーワンとなったことで、当社に対する周囲の期待と信頼が一挙に高まったと実感しています」（金山氏）。

また、ナンバーワンの達成は、自社に対

するコーソル社員のプライド向上にもつながっているという。ただし、ナンバーワンに上り詰めた後に社内的な向上意欲が低下してしまうことはよくあるケースだ。そのため、さらなるステップアップのモチベーションをいかに維持・向上させるかが今後の課題であると金山氏は指摘する。

「ナンバーワンになることよりも、ナンバーワンになったのちに、その地位を維持していくことのほうがはるかに困難です。しかも、ナンバーワンになったことで、我々に対するお客様の期待も大きく膨らんでいます。そうした期待にこたえていくためにも、さらなるステップアップに向けた目標を明確に定め、その達成に力を注いでいかなければならないと強く感じています」（同氏）。

オラクル研修の戦略活用で コーソルファンの拡大へ

コーソルが現在目指しているのは、Oracleデータベースのエキスパートとして顧客から全幅の信頼を得ることだ。そのためには、広範なナレッジの獲得と蓄積、活用が不可欠であり、それに向けてOracle University (OU) の研修も積極的に用いていくという。

「OUの研修についてはこれまで、資格取得に必須のカリキュラムしか取り入れていませんでした。ただし今後は、広範な知

見の獲得に向けて、OUの研修をより戦略的に活用していくつもりです」（渡部氏）。

また、金山氏は中期的な目標としてクラウド関連スキルの獲得を挙げる。

「大切なのはクラウド化の流れに乗り遅れないことです」と同氏は語り、そのうえで話をこう締めくくる。

「クラウド時代においてもデータベースがITシステムの中核であることに変化はありません。ですから、我々が持つ現在の技術力にも一層の磨きをかけ、それによってコーソルのファンをさらに押し広げていきたい。その取り組みを支援してくれる存在として、Oracle Universityには大きく期待しています」

PROFILE

株式会社コーソル

日本オラクルの認定パートナー（Oracle Gold Partner）として、「Oracleサービス事業」と「Oracleサポート事業」の2つをメインのビジネスとして手掛ける。Oracleサービス事業では、データベースシステムの分析・要件定義・設計・導入・構築、運用管理といった技術支援サービスを経験豊富なプロフェッショナルが提供する。一方のOracleサポート事業では、Oracleデータベースに精通したテクニカルアナリストが、24時間365日のサポートサービスを提供している。

ORACLE MASTER Platinum 取得のカギは「根気」にあり

コーソルの大城千廣氏は、2015年に「ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 11g」を取得し、2016年に「ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 12c」を取得した。同氏の現職はOracleサポートグループ主任で、メールと電話による顧客サポート業務を担当している。

「サポート担当の元には、お客様から製品や機能に関するさまざまな問い合わせが寄せられます。そうした問い合わせに答えていくうえで、ORACLE MASTER Platinumの取得で得られた広範な知識はとても役に立っています。とりわけ、データベースの障害対応に関する知識は有用で、お客様にも喜んでいただいています」と、大城氏は話す。

一方、コーソル Oracleサービスグループの五十嵐一俊氏は、2012年に新卒でコー

ソルに入社し、それから3年足らずの2015年に「ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 11g」を取得、翌2016年には「ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 12c」を取得した。同氏によれば、データベースに対する理解を深め、それが実際の業務にも活かせる点がORACLE MASTER Platinum取得の大きなメリットだという。また、同氏は現在、Oracle Exadataのユーザー企業に対し、コンサルティングサービスを提供している。「ですから、Oracle Exadata関連の資格も取得したいと考えています」と付け加える。

ともにORACLE MASTER Platinumの取得でデータベースへの理解が深まったとする大城氏と五十嵐氏。ならば、どうすればORACLE MASTER Platinumが取得できるのか——。この問いかけに、両氏は次のように口をそろえる。

「資格取得のための特別な方策はありません。日々の業務をこなしながら、いかに空き時間を作り、根気強く勉強を続けるか——。それがすべてです」



株式会社コーソル
Oracleサービスグループ
五十嵐 一俊氏

株式会社コーソル
Oracleサポートグループ
主任 大城 千廣氏

日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング12F
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ
お問い合わせ窓口

ORACLE
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education>